

説教 『あなたは神の国から遠くない』 寺島 昭二 牧師
聖書 マルコによる福音書 12：28～34

本日の礼拝は寺島昭二(アキツグ)牧師をお招きして説教していただきます。お願いして、礼拝週報のために、じんわり励まされる寺島先生らしい一文を書かせていただきました。ありがとうございます。

●
《週報のために》

暦の上ではもう秋ですが、夏の暑さがいつまでも残ります。山本牧師のお留守に主日の礼拝をみなさんと一緒に守ります。伝道所に連なるみなさま方に主の守りと祝福を祈ります。

「うしろすがたのしぐれてゆくか」、私の好きな種田山頭火の句です。ご存知のように、山頭火は5, 7, 5の俳句の世界から背を向けて形式を否み、季語もない句をただひたすらに作り、死後にその名を知られた俳人です。彷徨に生きることに生きる意味を見、家族を省みることもなく乞食(こつじき)が彼の生涯でした。

「うしろすがたの・・・」に心惹かれるのは人の真実は真正面にではなく、「うしろすがたに」偽りなく現れる、と私も思うからです。「うしろすがた」はどんなに取り繕って見てもその人の在り様が見事なまでに現れます。形式を廃した彼の生き方にも魅力を感じます。型にはまらない生き方とっていいかも知れません。型にはまる生き方はある意味で楽ですが、無味乾燥、惰性、マンネリ化に墮する危険があります。人それぞれの生き方を大切にするとしたら、その人らしさを失わないでことが大切です。それは創造性を失わない所から始まるっていいかも知れません。

私は自分の生き方を問う時、創造的であることを自らに強いて来ました。そして教会がその時代の時のしるしを考え、時代に深く関わることを使命の一つにするとしたら創造性を模索し、創造的に生きる必要がある、そう信じて教会の業を担って来ました。言葉を変えて言えば批判的に関わるっていったらいいのでしょうか。それが神さまの御心に適うことであつたかなかつたか、結論はずっと先に示されるでしょう。今はそれを静かに待つほかありませんが。

八ヶ岳伝道所に、私はそういう伝統や古い習慣から自由にされ、時代を先取る斬新さ、イエスと同時的に生きる(これはキルケゴールの言葉ですが)教会の在り様を見るのです。勿論、エティンガーの残した「変えるべきことと変えてはいけないこととを賢く峻別する知恵」を大切にしながらのことですが。

もう一つ、山頭火の句を送ります。「まっすぐな道でさみしい」、「また一枚ぬぎすてる旅から旅」、なぜ「まっすぐなみち」がさみしいのでしょうか。(寺島昭二)